

## さよなら 出石先生

—— 忘れません 先生の熱意 ——



故ボート部部长 出石邦保先生

出石先生を失った今深い悲しみと同時にボート部にとっていかに大きな痛手かを痛感しております。先生は昭和43年にボート部部长に就任されて以来、知徳体を兼備えたボート部作りを目ざされ情熱を傾けてこられました。それまでのほとんど宿泊のみの合宿所に新たにミーティングやOBの集会もできる兼用の勉強室を設けられたのを手始めに合宿所の建て替え、設備の拡充等次々と環境を整備してこられました。又部員の相談事や進路指導等にも積極的に取り組んでいただき、悩み多き年頃の部員諸君には実に有難い存在でした。同志社ほどのマンモス大学では頼みとする師と巡り合うのはかなり困難なのですがボート部員にとってはその点でも実に恵まれていたとおもいます。部員諸君には今一度先生の熱い情熱とその目ざされていたものを思い起こし胸にしっさりときれいに刻みこんでもらいたい、そして百年の歴史と伝統あるボート部に新たなる誇りの一頁を加えるべく努力して欲しい。先生のご遺志に答えるべく、諸君自信のため、後に続く後輩たちのために… 先生のご冥福を心よりお祈りします。

同志社大学ボート部主将 佐藤 亘

同志社大学ボート部の柱となっておられた出石邦保部長先生の突然の死は、八月下旬の猛暑の中でした。ここ数年ようやく軌道に乗り始めた私たちボート部が「さあ これからだ」と意気込んでいる時だっただけに 出石邦保部長先生の他界の悲しみは とても大きなものでした。

九月一日に行なわれた葬儀には ちょうど全日本大会が終わり ボート部部員は帰省していたところでしたが、この悲しい知らせを聞いて各地より急拠京都にもどって来て、出石邦保部長先生との最後の別れを惜しまました。

七月下旬に行なわれた関西選手権の時には、元気に瀬田の合宿所にお見えになられ、「しっかり頑張ってこいよ」と大喝一声、あんなに元気で力強かった出石邦保部長先生の夏空に輝くさわやかな顔が、今でもよみがえってきます。

二十年あまりもボート部部长として、私たちボート部員のために、いつもお力添えをさせていただきました。

出石邦保部長先生は、私たちボート部のひとつの大きな誇りである。メキシコオリンピック出場の時、やはりしっかりとボート部をお支えくださっており、「私もそろそろ引退の時期ですが、今一度 同志社大学ボート部の晴姿を見てから引退したい」と、口ぐせのように言っておられました。本当に残念ならないのはこのことで、戸田での決勝レースを、出石邦保部長先生に見てもらふことなしに、悲しみの別れとなってしまい、私たちボート部部員一同は、その無念さを、一刻も早くはらすため、日々今まで以上の練習に動み力をつけていきます。

出石先生、遠いところから私たちを見ておられるでしょうか、先生の戦争体験の苦しかった昔話、自分から苦しいことをやらなければ自分のためになんにもならないという意気込み、教わったことはたくさんあります。今度は、私たちボート部部員がレースに勝つ番です。みていてください。

それまではさよならは言えません

出石邦保部長先生の私たちボート部への熱気を、私たちは勝ってお返しいたします。



出石先生が最後に手がけた同志社イトクルー

## 全日本大学選手権 悲願の決勝進出ならず

去る8月21～24日に行なわれた全日本大学選手権及びオックスフォード盾レガッタに我が同志社エイトクルーも各1艇ずつ参戦した。8月16日に戸田入りした我がクルーであるが曇りによるパテの心配にも及ばず瀬田とはうってかわっての淳しさ、空は連日曇りっぱなし加えて風もある、雨が降り肌寒い日さえあった程である。

今年は周知の通り会社訪問解禁が例年よりかなり早くボート選手の4回生にとっては痛いところ、関選後就職問題でかなりもめ、人生のかかった問題であるからとCOX一人が降りたがローヤンは全員残った。しかし八月の練習はなかなか全員が揃わずままならないものがあった。しかし戸田へ来たからにはレースだけに集中しなければならない。ともかくにもレースは始まった。

### 【予選】

相手は2レーンから東京大・大阪大・学習院大・同志社大・神戸大、相手に不足はない。目標は東大に勝つこと、予選のレースは1艇あがり、1位にならないれば当然敗者復活戦へ、これだけは避けたい。予選の日早朝軽く乗艇して体をほぐす。予選レースは12時12分、スタート地点へ向かうほとんど無風に近い。東大のマイクの音がやけに大きい。オールメン緊張気味である。シーズン最後のそれも最大の試合4回生にとっては学生生活最後のレースである。12時12分スタート用意の声とともに戦いの火ぶたは切って落とされた。

我同志社クルーは絶好のスタート続いてスパートコンスタントへ、500m地点では東大が約3艇進出している。まだいけるコンスタント勝負だ。800m地点までは離されずとついていく。しかし1000mで4秒除々に差が広がる。

結局ゴールでは16秒という大差で2位、無念敗復へ落ちる。

### 【敗者復活】

同日16時12分のスタートが敗復であった。2000mを1日に2回漕ぐというのは、きつい。相手は立命館大・早大理工・同志社大・大阪府大の4クルーのレースである。早大理工にはアジア選手権選考会の時に負けている。いわば雪辱戦でもある。スタート地点追い風がある。4回生のCOXが降りて2回生のCOXが乗っている故まだ不慣れでステッキボートになかなかつけれない。あせりはない。敗復は2艇あがりなので予選よりは気が楽だ。遅れることなく16時12分、またや絶好のスタートをきる。しかし500mで早大理工に約1艇身つけられ立命館が以外にもぶつとついてくる。早大理工はもう見えない。Juniorの声援が聞こえる。大きく漕げる、リズムも良い、声も出ている。必死で2000m漕いだオールメン自分の漕ぎが出来たのに何故早大理工は見えなかったのだから?ゴールでは4秒差がついていた。スタートしてからつかず離れずでゴールしてしまったようである。戸田のレースでこのレースが最も自分たちの納得のゆく漕ぎが出来たものであった。2位ではあるが準決勝へ進出できるということも手伝ってクルーのメンバーの顔は明るかった。

今年の戸田ではよく眠れた、涼しかったのが原因であろう。オールメン体調は上々である。

### 【準決勝】

大学選手権準決勝対戦相手は3レーン早稲田大4レーン同志社大5レーン東京工大の3艇レース他のレースは4艇レースである。決勝進出の確率が高いが相手は強豪



である。しかし東京勢との力の差を試すにはもってこいである。関西勢で準決勝に残ったのは大阪大・京都大・滋賀大経済であったが4位3位2位で落ちてしまっていた。関西のクルーで唯一決勝に駒を進めるのは同志社だけでありたいと願いながら同志社チアールに見送られ明治生命の船台からけり出す。ウォーミングアップでスタートへ向かう間にも京大滋賀大などの声援を受ける。同じ様に瀬田で練習している学校だけにとても嬉しく期待に答えてみせようと思いをよりレースに集中させる。後がないこのレースに負ければそれで終わりだ。

スタート地点はきつい向かい風記録では1000mで東の風4m2000mで北東の風3.5mとなっていた。いよいよスタートである。

敗復、予選よりは落ちるが良いスタートをきった。しかし好スタートの割には500mでトップの早稲田との差一艇身続く東工大にも各艇身の差をつけられている。後がないと頭で思うほど体が堅くなってリラックスできない。加えて強い向かい風で一本一本のストロークがとても重い。1000m地点早稲田大東工大とも見えない。しかしここで漕ぎ止めることはできない。あと半分何が起こるかわからないのだ。無心でリズムを崩さないようより強いストロークが引けるように前だけ見て漕いだ。好スタートも虚しく結果は1位早稲田大に19秒2位東工大に16秒もあけられての惨敗だった。

このレースでは関東勢との力の差を痛感させられた。関西勢はどこも決勝進出できなかったのである。学生選手権決勝は北海道大・中央大・東京大・慶応大・早稲田大のレースで中央大が優勝、全日本選手権は東レ・中央大・慶応大・早稲田大・トヨタ自動車で決勝が行れ1位東レ2位中央大3位トヨタと社会人クルーが3位中2つをとるという結果に終わった。

来年こそは同志社クルーが何年ぶりかで決勝へ進出し大勢のギャラリーの前を熱い声援を浴びながらスタート地点へ向かい、同志社大学ボート部の歴史に、残る成績をあげられるクルーになりたいものであります。

## Jr. おしくも準決勝敗退に終る

Jrエイトは、朝日レガッタ終了後組んだ。

4回生1人、3回生2人、2回生4人、1回生2人とかなり若く心配されたがファイトで夏場の漕ぎ込みをこなし、戸田へと乗り込んだ。

予選はどうも緊張したのか、スタートが思うように伸びず、1位岡山大に8秒差の4位。関西勢では、京大、滋賀経、滋賀教が準決勝進出を決めていたのでどうしても敗復は、負けられなかった。

いよいよ敗復、この組での予選タイムは、四位で12秒程差があり少々心配したがやはりレースをするまで結果はわからない。

スタート500mで1位から1艇身離れて2位同志社、3位早大理工、4位明治がほとんど横一線となり苦しいレースとなった。結局、1位の熊本大まで半艇身に詰めたが2位で準決勝へ駒を進めた。

敗復でのいい感じを準決勝でもだそうとしたが、スタートで出遅れ、リズムも乗れなかったがなんとか追いつこうと力漕したが、3位で決勝に進めなかった。

別の組で京大、滋賀経が決勝に進み悔しい思いをしましたがこの悔しさを忘れないで来年には、優勝を狙います。



## 卒業にあたって

### 4回生から一言

前主将・城生 栄二

これからは、OBとして、ボート部の活躍を見守っていきたいと思います。

前主務・奥谷 勇人

後輩諸君へ、常に前向きでいて欲しい。妥協の余地はないのだから

前副将・高橋 良明

私が4年間ボートというスポーツを通じて学んだことは数知れませんが、引退をした今思うことは勝利を稼げる難しさです。

前会計・樋口 健一郎

四年間お世話になった事を感謝すると共に、出石先生の御冥福をお祈りします。

前学連・安田 一郎

ボート部での生活、行事は全て楽しかった。これを生かすついに社会で発揮する時が近づいている。

### 後輩Aより4回生の方々へ一言

4回生のみなさん本当に御苦勞さまでした。ボートのことなど何も知らなかった私がボート部に入学してはや1年半、私がここまでこれたのも4回生の方々の御指導のおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。特に今年の8月に対校COXとして、城生さんをはじめ4回生の方とともに試合に出れたことは、私のボート人生においてとてもプラスになりました。4回生のみなさん、卒業されても御活躍されることを信じています。さようなら。

前寮長・後藤 嘉樹

練習はつらいものだけれども自分に負けずガンバレ

森川 博有

私は完全に福井県の国体要員となってしまいました。会場で会ったら手を振るべし。

屋久 浩典

ボート部での4年間は、ほんとに実り多いものでした。これを糧に、今後も頑張っていきたいと思います。

大沼 弘幸

今は後悔と満足が入り交った気持ちです。監督・コーチを含めOBの方々には大変感謝しております。後輩諸君の建闘を祈る。出石先生の方までもガンバレ!! オレもガンバレ!!

藤田 哲哉

常に情熱をもって練習にはげんで下さい。

## 関西漕艇選手権

### 兼瀬田川杯レガッタ

今年の関西及び瀬田川杯レガッタは7月26日・27日の二日間、滋賀の琵琶湖漕艇場でおこなわれた。我が同志社大学ボート部からは、対校エイトが関西選男子エイトに、Jrエイトが瀬田川杯男子舵手付フォアに、そして新人フォア2艇が瀬田川杯男子舵手付フォアに、また関西選男子シングルスカルに1艇と、計29人が出場した。結果としては決して満足できるものではなかったが、クルーを組み、そしてエイトに乗りはじめて一か月そこそこのJr. エイトが瀬田川杯の決勝に進出したり、ボートを初めて2か月たらずの新人フォア・シングルスカルがそれぞれ準決勝へ進むなど新しい力が目立った大会であったように思う。結果は以下のとうりである。

### ～ 大会結果 ～

昭和61年度関西漕艇選手権大会兼瀬田川杯レガッタ

#### ・ 関西選エイト

同志社（屋久，森川，原，後藤，高橋，星沢，大沼，城生，佐藤）  
準決勝敗退

#### ・ 瀬田川杯エイト

同志社（末瀬，石田，井上，坂本，平松，藤田，斉藤，内藤，開谷）  
決勝4位

#### ・ 瀬田川杯フォア

同志社A（元坂，椎名，石橋，朝倉，西田）  
準決勝敗退

同志社B（阿江，配川，前田，久世，米原，）  
予選敗退

#### ・ 関西選シングルスカル

西田智明 準決勝敗退

### OBの皆様へお知らせ

上  
11月15日（日曜日）同志社大学今出川キャンパス、明徳館21第教室にて故ボート部部长、出石邦保先生の追悼式が行なわれます。時間は午後2時から3時までとなっております。是非御参列下さい。

## 新幹部紹介

主将 佐藤 亘  
商学部・岡谷南高校出身  
主務 阿江 克彦  
文学部哲・倫専攻 小野高校出身  
副将 原 一雅  
経済学部・洲本高校出身  
副務 斉藤 繁明  
法学部法律学科・長岡天手高校出身

## 新主将の一言

どうせやるなら勝つのがいい、『どうせ』なんていうならやらない方がいい。それでもやっているとこをみると、やはり好きだから勝ちたいから。しかし 成り行きでやっていたんじゃ悔があかない。

どんな奴でも苦しいことはいやだ。でも勝ちたいなら苦しいこともガマンしてやる奴がいる。勝つためにはこれだけじゃだめだ。誰だって勝ちたいんだから、誰だって苦しいことをやっている。だから、そこから先 苦しくなってから先どれだけ苦しめるか。その苦しみを知っている奴が勝てるのかも知れない。ちょっと意識すればできないことはない。

やる気はある。さて そのやる気をフルに生かすには……。練習をやった分だけ力をつけるには……。具体的に練習メニューの工夫が必要となってくる。頭を使った練習である。

もちろん量の上に質が立つわけであるから楽な練習で勝ってみせるなんて気は毛頭ない。

しかし、がむしゃらだけで勝つ時代はもう終わっているはずだ。そして誰のおかげでだとか、そんな1人の力で勝つ時代でもなし、少なくともボートにはそんなことはあり得ないだろう。だから1人意気込んでみても勝ちにはつながらない。ボートというものは、勝つ時も負ける時もみな運命をともにするものだ

「みんながみんな」という、この当り前のことをめざして、ボート部のいいムードをつくっていききたい。

## 編集後記

今回は本当なら9月中に出来上がる予定だったのですが、遅れに遅れてしまった。部報編集に関係してこれで3回目、そろそろ引退したい今日このごろです。

部報力漕  
1986年10月18日発行  
発行 同志社大学ボート部大  
津市瀬田3-2-30  
〈編集委員〉  
佐藤 亘 原 一雅  
関谷晴彦 末瀬雅巳